

ロシア為替週報

2022年6月13日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去2週間の動き〉 (5月28日～6月10日)

USD/RUB: 55.750～67.00

過去2週間のロシア・ルーブル相場は、上昇。25～27日の急落から、30日は反発を見せたものの、その後は堅調気味の横ばい。9日以降、対ドルで60.0を上抜け、水準をもう一段切り上げた。30日の反発に、特段のルーブル買い要因は確認できなかった。敢えて挙げるなら、並行してドル全般(対円を除く)の軟調推移が続いていたので、ルーブル反発にも、ドル安の側面が強かったかもしれない。ただし、その後、米長期金利の底打ち上昇と並行して、ドル堅調が支配的になった事実を鑑みると、その後のルーブル堅調には、相当なルーブル押し上げ要因の存在が考えられた。しかし、ルーブル買い要因は、引き続き、ルーブル買い需要(輸出)＞ルーブル売り要因(輸入)という実需の構図以外に見当たらなかった。ロシア要因では、①米政府(31日)、EU(1日)が、相次いで対ロ追加制裁の導入を決定したこと ②クレジットデリバティブ決定委員会(注1)が、ロシア政府が、4月4日に償還期限を迎えたドル建ロシア国債の支払い猶予期間中の金利(19億ドル)を支払わなかったのは信用事由に相当する(注2)との判断を下したこと(1日) ③ロシア中銀が居住者、非友好国以外の非居住に対する外貨取引制限を、従来の5万ドルから15万ドルに引き上げたこと(7日) ④ロシア5月CPIの下振れ(8日) ⑤ロシア中銀による大幅利下げ(10日) ⑥ロシア政府が、輸出企業の外貨売り上げルーブル転義務(120日以内に50%)を撤廃するとしたこと(10日)など、ルーブル押し下げ要因と読める材料が続出したもの、ルーブルが反応した様子はほとんど読み取れなかった。9日発表された ⑦ロシア1～5月経常収支の大幅黒字増加はルーブル押し上げ要因と読めたとし、実際、ルーブルは上昇したものの、その上昇は指標発表に数時間先行しており、或いは、事前に数値が漏洩していた可能性も考えられた。週引けを控え、発表された米5月CPIの上振れを受け、ドルは対ユーロ、対ポンドなどで急騰したが、ルーブルに対してはほぼ横ばいだったのは、ルーブルもドル並みに堅調だったと見做すこともできただろう。

〈過去2週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/1	16:00	小売売上高(前年比)	4月	-9.7%	-5.8%	+2.2%
	16:00	失業率	4月	4.0%	4.3%	4.1%
	16:00	実質賃金(前年比)	3月	+3.6%	-4.1%	+2.6%
	16:00	鉱工業生産(前年比)	4月	-1.6%	-1.1%	+3.0%
	6/6	8:50	国民福祉基金残高(USD)	5月	197.7bn	
6/7	13:00	外貨準備高(USD)	5月	587.4bn		593.1bn
6/8	16:00	CPI(前年比)	5月	+17.10%	+17.35%	+17.83%
6/9	13:00	経常収支(USD/年初来)	5月	+110.3bn		+95.8bn
6/10	10:30	1週間物入札レボ金利		9.50%	10.00%	11.00%

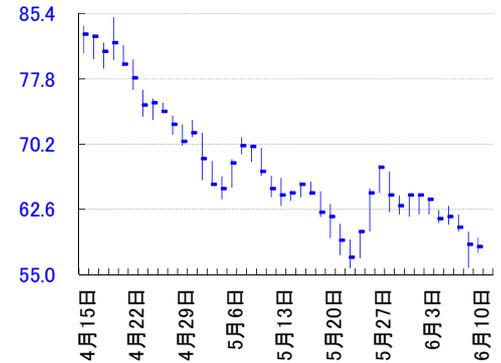
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (6月11日～6月17日)

USD/RUB: 56.00～62.00

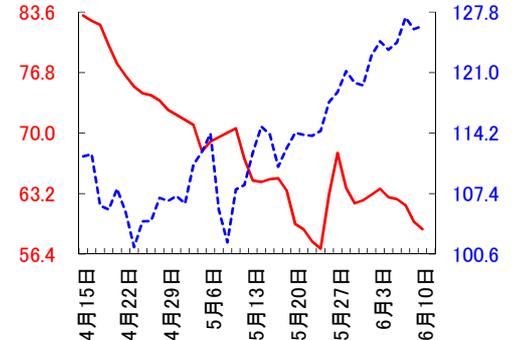
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、堅調推移継続を中心に見ながらも、引き続き反落の可能性を警戒。上述③、⑤、⑥は、ロシア当局が「意図的」にルーブル押し下げを狙った決定のはずだが、現状、ほぼ実需(輸出＞輸入)だけで動いているルーブルはほとんど影響を受けなかった。ルーブルの堅調ぶりは、9、10日とドル指数(ICE)が急上昇していたにもかかわらず、そのドルに対してすらルーブルが上昇した値動きからも読み取れる。ロシア中銀は3月(に発表した2月指数)を最後に、貿易収支の発表を見送っているが、9日発表された経常収支の黒字拡大は、ウクライナ戦争勃発後も、同国の貿易収支が相応の拡大を続けている可能性を強く示している。上述、実需がルーブルを押し上げる構図が早晩変化す可能性は低いだろう。一方で、ロシア当局がこれ以上のルーブル高を望んでいないのも、ほぼ、「事実」と考えられる。ルーブル高は(輸入)物価押し下げに寄与する一方、ルーブルに換算した時の政府歳入を目減りさせるからだ。戦争を遂行中の政府にとって、決して歓迎されることではな

USD/RUBの推移 (日足/ロンドン7:00～17:00)

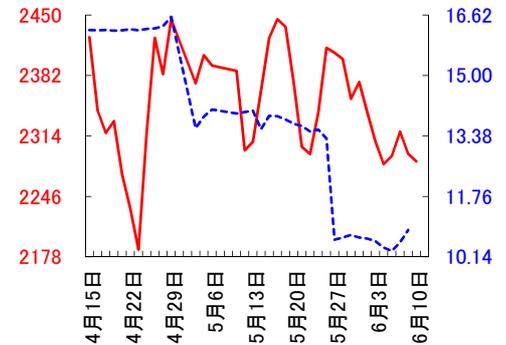


株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		9.50%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.5%
失業率	4月	4.0%
消費者物価(前年比)	5月	+17.10%
小売売上高(前年比)	4月	-9.7%
鉱工業生産(前年比)	4月	-1.6%
貿易収支(USD)	1月	+21.2bn
経常収支(USD)	Q1	+58200mln

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

ロシア為替週報

2022年6月13日 | みずほ銀行欧州資金部

かろう。ルーブル反落を警戒するのは、上述各種ルーブル高抑制策の不発に業を煮やした当局が、「実弾」に訴える可能性を警戒するから。6日発表された5月国民福祉基金残高が大幅な拡大を見せたのは、外貨準備全体が減少している状況で、目を引いた。本来、外貨に転換した上で積み上げられる国民福祉基金は外貨準備の一部であるはずだからだ。具体的に、どのような資金流が発生しているのか定かでないものの、仮に、足元原油価格高騰の結果、燃料関連税収の想定を上回る部分を、ロシア財務省がせっせと外貨転して積み立てているのだとしたら、そこから、市場におけるルーブル売り為替介入に動くまでのハードルは、そんなに高くはないのではないかと。

(注1) 信用事由の認定や入札開催の可否などを判断するISDAの下部組織

(注2) CDSの支払いが発生する

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/13-6/14		財政収支(RUB/年初来)	5月		+1165.0bn	+1041.2bn
6/15	16:00	GDP(前年比)	Q1 P		+3.6%	+5.0%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。